



VOL. 31  
2011・春号

“あいのかぜ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人一人が男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。

編集 男女参画・ボランティア課  
(〒930-8510 あて先の所在地不要)  
☎443-2051 FAX443-2176  
✉ danjyo-volun@city.toyama.lg.jp

特集：身近なところから男女共同参画

## “はじめの一步”から“これからの一步”へ

この一言、あなたはどう思いますか？ ～最終回～

「男女共同参画社会」とは言っても、何から始めていいのかわからない…。普段の生活の中にも、男女共同参画社会を考える出来事がたくさん眠っています。

「あいのかぜ」では、“はじめの一步”として男女共同参画を考えるきっかけとなるような身の周りでよくある出来事を取り上げてきました。最終回の今回は、“はじめの一步”が“これからの一步”となるような日常の一コマを掲載します。

夫婦2人、共に定年をむかえ10数年。夫と2人暮らし。

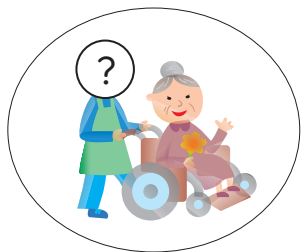
数年前から夫の介護をしているが、

今は2人で楽しく生活している。

ある休日、

息子家族が遊びに来てくれたときに

孫がこんなことを言いました。

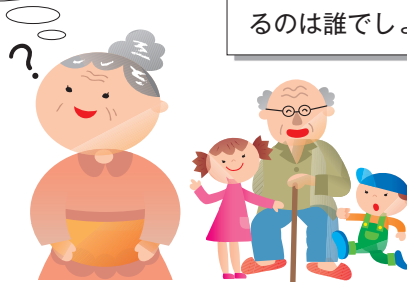


「将来、おばあちゃんは  
誰に介護してもらいたい？」

孫のこの一言にドキッとしました。

将来、私に介護が必要となったとき、

誰が介護してくれるかしら？



### これからの介護の担い手

今は元気に生活している人も、将来は直面する問題の一つが「介護」。一昔前は、「介護」も育児と同様、女性の役目と思われていました。しかし、家族形態が多様化し、少子高齢化が進む今、介護の担い手となる人は、男性女性を問いません。

自分の家族に介護が必要となったとき、また、あなた自身に介護が必要となったとき、介護をしてくれるのは誰でしょう？

これまで掲載した“はじめの一步”には、

- 今まで「当たり前」と思っていた日常の出来事だが、はっとさせられ、改めて考えさせられた
- 「男女共同参画」と同時に、女性が女性らしく、男性が男性らしく生きていく素晴らしさも発信しなければ、本当の意味で、お互いが尊重して生きていく社会は生まれないのでは
- 読む人の年代によって、さまざまな感じ方・捉え方があると思う

といった、たくさんのご意見・ご感想を頂きました。ありがとうございました。

捉え方は人それぞれです。「男女共同参画」と難しく考えず、お読みいただいた皆さんそれぞれが、少しでも何かを感じていただければ幸いです。

これからも、  
多数のご意見・ご感想  
をお寄せください。  
お待ちしております。  
(編集委員)

# 富山市男女共同参画に関する市民意識調査結果

富山市では、昨年8月に「男女共同参画に関する市民意識調査(※)」を実施しました。この調査は、家庭、地域、職場などにおける意識や実態、ニーズを把握するとともに、今後の男女共同参画施策に反映させていくことを目的としています。ここでは、前ページに続き、調査の結果から市民の皆さんの『介護』に関する意識をみてみましょう。

「あなたの家庭では、高齢者介護の主たる担い手または将来の担い手は誰ですか。現在、介護を受ける人がいない場合は将来、誰が中心になると思いますか。」との問いに対し、「配偶者」との回答が45.0%と最も高く、次いで「娘」が15.0%、「息子」が11.9%となっています。

また、男女別では、男性は「配偶者」が52.4%と、女性に比べて13.3ポイント多くなっています。女性は「娘」が20.3%と男性を11.4ポイント上回っています。(図1)

現在、介護をしている人の割合は、40代以降で急激に増加しています。また、男女別にみると女性の割合が高くなっています。(図2)

“これからの一歩”として、男性・女性にかかわらず、日頃から“家のこと”は家族みんなで助け合ったり、介護予防のためにみんなで楽しみながら健康づくりをしたりしてみたいでしょうか。



図1 高齢者介護の主たる担い手または将来の担い手

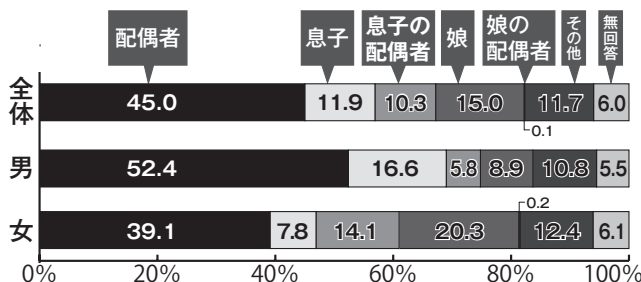
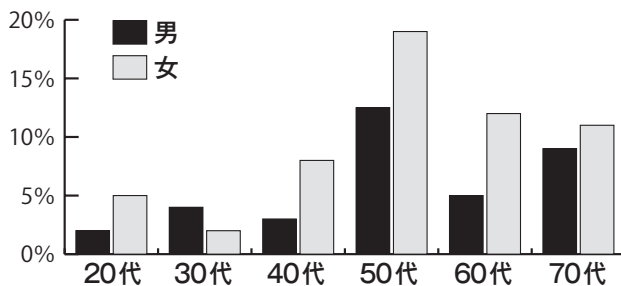


図2 年代別にみる現在、介護をしている人の割合



(※)住民基本台帳から無作為に抽出した、20歳以上79歳以下の男女1,200人を対象に実施

## REPORT 男女共同参画とやま市民フェスティバル2010

レポート 平成22年11月21日に、男女共同参画社会の実現に向けて「男女共同参画とやま市民フェスティバル2010」が開催されました。あいのかぜ編集委員がご報告します。

### 講演会

㈱ワーク・ライフバランス代表取締役社長の小室淑恵さんが「あなたが輝く働き方～秘訣はワーク・ライフバランス～」と題して講演されました。

今後、少子高齢化が進み、企業では介護休業者が増えていくため、社員が育児休業や介護休業を取得しつつ働き続けられる柔軟な組織作りが重要で、社員には短時間で成果をあげる働き方を求められるそうです。

プライベートな時間に、スキルアップを図ったり、異業種交流に参加して人脈をつくったり、育児に関わることなどで、今までの視点では思いつかなかったアイデアが生まれ、結果、仕事の質と効率が上がり、仕事も生活も充実する好循環が生まれるというお話でした。

仕事漬けの毎日ではアイデアは生まれにくいことなどを、具体例を挙げながらの話に思わず納得。「ワーク・ライフバランスはひとつとではない!」と感じました。



### 市民協働による虐待防止啓発セミナー

「虐待」に関して活動している複数の団体が、虐待防止のためにできることなどについて意見を交換しました。

- 虐待を受けたと思われる児童を発見しても、「もし、虐待でなかったら」と思い、なかなか児童相談所などに報告できない方が多い。皆さんの一報が子どもと親を救うので、積極的に連絡をお願いしたい。
- 介護から虐待に発展する場合がある。地域に介護をしている方がいたら、介護をひとりで抱え込まないよう、地域の方になんでも話せるような体制づくりが必要。地域の方は、積極的にそういう方に声をかけたり、地域行事の参加を呼びかけたりしてほしい。
- 地域の見守り体制が必要で、皆さんも自分だったら何ができるかを、この機会に考えてほしい。などの意見が出されました。



# 男女共同参画社会づくり 作文コンクール

男女共同参画社会の実現に向けた意識を高めるため、市内の中学生を対象に男女共同参画に関する作文を募集したところ、269点の応募がありました。

【最優秀賞】 石井 遥いししい はるかさん(岩瀬中学校 3年)

【優秀賞】 荒井夏海あらい なつみさん(北部中学校 3年) 倉本卓実くらもと たくみさん(北部中学校 1年)  
西尾真尋にしお まひろさん(新庄中学校 1年) 林 かなはやしさん(新庄中学校 1年)

応募された皆さん、ありがとうございました。最優秀作品を紹介します。



## 「男女共同参画 ー我が家の場合」 岩瀬中学校 3年 石井 遥

私の両親は共働きなので、家族で家事を分担することはあたりまえという環境に育ちました。母が食事を作り、父が後片付けをし、週末には家族全員で一斉掃除をするというふうになっています。今年の夏休みには私と兄で庭の水やりと食器洗いを分担してみました。必ず2人で仕事を完結させるといふことにし、どちらかが都合が悪くてできないときにはもう一方がやり、別の日に借りを返すという取り決めをしました。

その中で気がついたことは、自分が面倒なことは相手も面倒であること、でも誰かがやらなければ、私たちの場合なら草木は枯れてしまい、汚れた食器が山積みで、快適に暮らせないということです。家事を毎日続けていくには、責任感とお互いへの思いやりが必要なのだと分かりました。

また、公民では日本人女性の就業率は20歳代後半から30歳代まで減少し、M字カーブを描くことが特徴で、育児により仕事をやめることによると習いました。母になぜ仕事を続けられたのか聞くと、母は産休の他に育児休業を取ることができ、さらに職場には保育園が隣接され

ていて、昼休みには母乳をあげに通えて便利だったそうです。私や兄が幼い頃には仕事時間を短縮して働き、小学生になってからフルタイムに復帰できたことと聞きました。

また、私が小学生の時に母はスウェーデンに半年間留学することになりました。父が休職して一家で移住しました。この間父が主夫となり掃除や洗濯、私と兄の送り迎えと買い物といった家事をがんばっていました。父母から、仕事を続けられたのは理解のある職場に恵まれたことが最もよかったが、自分でも復帰を待たれるような専門的な能力を高めること、さらに職場の理解を得るために普段から努力することが必要だと聞きました。これに加えて、本題からは脱線しますが、なによりも子供である兄と私が健康であり病気になるなかったことがありがたかったとも聞きました。

家庭でも仕事の場でも男女の関係なく協力し合い、お互いが能力を発揮できて生活を楽しめるような社会を目指すには、私たちひとりひとりが責任感をもって努力し、かつ、お互いを思いやるのが大切だと思いました。

## 「あいのかぜ」

### 新・編集委員を募集します



●**応募資格** 市内在住の20歳以上の方で、平成23年度・24年度の2年間、編集委員として活動し、平日の日中に開催される編集会議に参加できる方

※「あいのかぜ」は年2回発行。1回の発行につき編集会議は5回程度。

●**仕事内容** 企画、取材、原稿作成、レイアウトなど

●**募集人数** 3人(面接により選考)

●**任期** 委嘱した日から平成25年3月31日まで

●**応募方法** 4月28日(木)までに、所定の応募用紙を、直接またはFAX、郵送、Eメールで男女参画・ボランティア課(〒930-8510 あて先の所在地不要:市役所3階)へ。

※応募用紙は、男女参画・ボランティア課、男女共同参画推進センター(湊入船町)、各総合行政センター市民生活課・市民福祉課にあります。(Eメールで応募の方は、応募用紙のデータを送信しますのでご連絡ください)

〒男女参画・ボランティア課 ☎443-2051 FAX443-2176

☒ danjyo-volun@city.toyama.lg.jp

## 編集後記

男女共同参画社会をめざし、まだまだたくさんの課題がありますが、男性も女性も互いに思いやりを持って行動すれば難しいことではないと思います。あせらず、ゆっくりと、無理をせずに、そして女らしさを忘れないようにいきたいと思えます。

(越前玲子)

皆さん、一緒に歩みだしませんか。

皆さん、一緒に話し合ってみませんか。

(鳥羽隼子)

「あいのかぜ」はイラストを主体とした構成で、男女共同参画社会をイメージできた」と山崎家では好評でした。伊東家や磯野家、皆さんのご家庭ではどんな評価を得たのか知りたいものです。編集後記まで読んでいただいた方のご意見をお待ちしています。

(山崎弘行)

今号では「はじめの一步」が「これからの一步」へと前進しました。編集に際しまして、2年間、多くの方々にご協力いただき、ありがとうございました。